

# おたっしやかわら版

誕生



## なごみ新聞

285

もくじ

2P..... 矢野事務長から  
3P..... ケアハウス  
4P..... あいあい通信  
5P..... 居宅介護支援事業所  
6P..... 特別養護老人ホーム  
7P..... テイサービス落合

8P..... 亀山  
9P..... グループホーム可部  
10P..... メゾン・クレア  
10P..... 専門家の知恵  
11P..... 看護小規模多機能ホーム  
3月のお誕生者さま



社会福祉法人 正仁会

2026年 3月号

3月、弥生、マーチ、英語で書くと「March」。ミニア（カンボジア語）、ブランマルツ（インドネシア語）、タンバー（ベトナム語）。寒さもやわらぐ春分の季節。

さて、去る食欲の秋ならぬ、正月明けの真冬のこと。餅は罪深く、みかんは無限で、気づけば体重計が「おや？」と首をかしげる数値を示していた。標準体重から約1キロオーバー。たった1キロ、されど1キロ。ジーンズのウエストは正直で、鏡は嘘をつかない。何よりも自分自身の体重のへの感覚が一番よく知っている。そうなると小生は、いつものように「食事をセーブする」という名の静かな闘争に入る。経験上、この作戦は成功率が高い。結果、体重は自己満足基準の「標準」に戻り、数字上の平和は保たれていく。

しかし、である。食事をセーブすると、なぜか気力までセーブされてしまう。頭は回らない、集中力は散らばる、そして何より走りたくなる。寒いのも相まって歩きたくもなくなる。週末のジョギングやウォーキングが日課のはずなのに、シューズを見るだけでため息が出てしまう。そのときに小生は毎度のことながら思い知らされるのだ。「食べ物の威力」を。

そこで今回は食事が身体に与える影響について、触れてみたい。

食事とは、単なるエネルギー補給だけではない。ガソリンのように入れれば動く、という単純な話でもない。食べるもの、味、量、タイミング、そのすべてが身体と精神、さらには生産性にまで影響を及ぼしてしまう。例えば、脳。脳は体重の約2%しかないくせに、消費エネルギーは全体の20%前後を占めるらしく、たいへん燃費の悪い臓器。しかも、その主な燃料はブドウ糖。食事を減らしすぎると、血糖値が安定せず、集中力は霧散し思考は空回りする。「気力が出ない」の正体は、根性論だけではなく、単なるエネルギー不足というケースが多い。

また、食事はホルモンとも密接に関係している。幸福感をもたらすセロトニン、意欲を高めるドーパミン。これらの材料は、たんぱく質やビタミン、ミネラルといった栄養素だ。つまり、極端な食事制限は「幸せホルモンの原料不足」を招き、生産性どころか人生の彩度まで下げかねない。

そこで重要なのは、「食べるか、食べないか」ではなく、「何を、どう食べるか」となってくる。量を減らすことに意識が向きすぎると、身体は防衛モードに入り、省エネ体質になる。結果、動きたくなくなる。これは怠惰ではなく、極めて生物学的に正常な反応である。生産性を上げるためには、むしろ食事を戦略的に摂るべきである。朝食を抜けば午前中の集中力は

落ち、昼食を軽視すれば午後は眠気との戦いになる。炭水化物を敵視せず、良質なたんぱく質と適度な脂質を組み合わせる。血糖値を急上昇させない食べ方を心掛ける。それだけで、体感的なパフォーマンスは驚くほど変わるらしい。だから小生自身、食事を「削る」意識から「整える」意識に切り替えたい。すると走る気力は戻り、頭も回り出す。体重は魔法のように減らないが、日常の生産性は確実に上がる。何を考えるにも、何をやるにも、身体がベースであることを痛感できる。

結局のところ生産性とは気合や根性の問題ではない。毎日の食事という地味で当たり前の行為の積み重ねが、仕事の質、集中力、継続力などを静かに左右しているから。だから食べることは甘えではなくむしろ、最高の自己投資かも知れない。今日の一食が、明日の自分を動かす。その事実を、体重計と空っぽの気力が、教えてくれるのである。

ところで今、世の中を見渡してみると、ものすごい勢いで「働き方改革」がテーマとなっている。ワークライフバランスを求めて、まるで日本全体で「生産性を高めろ、生産性を高めろ」と呪文を唱えられているかのように……。そして我々福祉の世界でも盛んに「生産性向上」への取組みが謳われ求められている。少子高齢化の進展と生産労働人口の減少から端を発しているのだ。

「生産性」という言葉自体は少し曖昧で、何を持って生産性というのかはつきしないが、結局のところ業務に要する同じ時間でも、より多くの成果物を生み出すことができることの方が「生産性が高い」状態というのだろう。高齢者福祉の世界で考えると、何もエクセルやパワーポイントを効率よく使いこなすだけではない。要介護者の増加やニーズの多様化の中で業務を見直し、限られた人材資源で一人でも多くの利用者に質の高いケアを届け、そして改善から生まれた時間を有効活用し、利用者に向き合う時間を増やして満足感を高めていただくということ。それこそが、生産性が高い状態と言えるのだろう。

そして生産性をより高めるためにも、食事だけではなく、睡眠や運動の影響をも意識したい。ビジネスパーソンは、「セルフ・マネジメント」が益々大切になってきているので、どうすればいかに生産性が高まるのか、これを考え、私たちに合った方法を見つけていくことが非常に重要なものではなからうか。

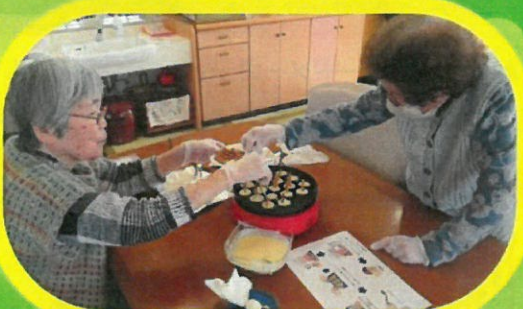
春間近の中、生産性向上は食事から始まる。あと、睡眠、運動も……。そんなことを思っているこの頃です。

合掌  
矢矧 秀樹 拝

ケアハウス

でっかい

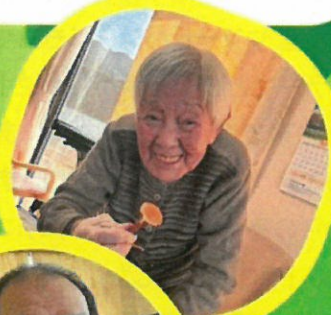
# たこ焼き器で作る きのこの山



ケアハウスでは2月の行事として、たこ焼き器を使ったお菓子作りに挑戦しました。ホットケーキミックスの生地をたこ焼き器に流し込み、棒状のビスケットを挿して焼き上げます。ふっくらと焼けた生地に溶かしたチョコレートをつまみディップして冷やせば、まるで大きな「きのこの山」のような可愛らしいお菓子の完成です。

皆様、熱心に作業に取り組まれ、「きのこにそっくりだね。」「チョコレートはたっぷりつけようや。」と和気あいあいとした雰囲気の中で、作業を進めていられました。回数を重ねるごとにどんどん上達され、まるで職人のような手つきで次々と形よく仕上げていかれる姿が印象的でした。

出来上がったお菓子は、バレンタインデーにちなんでハート柄の箱に入れてお出ししました。「可愛いねー!」「箱の作り方を教えて。」と喜んでいただけました。お味の方も「美味しいね。」とおかわりもしてくださるほど大好評でした。沢山作ってくださり、職員にもお裾分けいただきました。皆様の愛情がたっぷり詰まっていて、とても美味しかったです。 事務 大林 佳世



あいあいねっと

## 素敵なボランティアさんをご紹介します！

前回に引き続き、“あいあいねっと”の素敵なボランティアさんをご紹介します。今回ご紹介する方は、いつも優しく笑顔が素敵な神田さんです。“あいあいねっと”では、食品の荷運びや点検整理、引き渡しなど、フードバンク活動に携わっていただいています。また、ミニ講座のポスターや“あいあいねっと通信”をご自宅の周辺やバイパス近くのマクドナルドなどに掲示する広報活動も積極的にしてくださっています。「人と交流することが好きでね。退職した後、ボランティアをしてみようと思っていた時に、広島土砂災害が起こって。ボランティアセンターで活動する中、気が付いたら政田さん（“あいあいねっと”のボランティアさん）と一緒に食べ物をボランティアセンターに運んでいて。それがきっかけで、活動に関わるようになったんよね。みんなと過ごすのが楽しいから、“あいあいねっと”に来てるけど、それが人の役に立つなら、うれしいなと思います。」と、お話をいただきました。

神田さんは、いつも変わらず優しい雰囲気、にこにこ話しかけてくれるので、ムードメーカーとして、“あいあいねっと”には欠かせない存在です。今年で12年目となりますが、これからもよろしくお願いします！



## 毎日新聞の記事の一部に“あいあいねっと”の取り組みが掲載されました。

2月5日（木）の毎日新聞に、『苦渋の値上げ 滞る支援〜こども食堂やフードバンクにも影響〜』というタイトルで、物価高の影響をテーマとした記事が掲載されました。

記事では、広島市中区にある『十日市こども食堂おてらごはん』のエピソードが書かれていました。『米価格の高騰と農家や企業からの寄付が減り、一時的に高校生以上の参加費を300円から400円に値上げした。すると、すぐに埋まっていた50人の定員が30人に満たない月が続いた。』その時、生活が苦しい人にとって、100円の差は大きく物価高が生活に、ものすごく影響していると感じた』と、こども食堂の代表者の方。ごはんを食べに来ていたシングルマザーの方は、『食費や教育費は値上がりしているのに、給料は上がらない。生活費の負担が大きい。物価高で、教育や体験の格差が広がる。どの家庭も子育てしやすい環境づくりを勧めてほしい』と語った』と書かれていました。後半では、“あいあいねっと”が行っている食料支援についてのエピソードが書かれていま

した。『企業や病院などから食料提供を受け、ダンボールに詰めて生活が厳しい家庭に無償で送る活動をする中、長引く物価高の影響で、十分な食料の確保が難しくなる一方、支援を求める人は、増え続けている。宅配料金の値上げもあり、寄付でまかなっていた約1,000円の宅配料金を受け取る人の負担に変更せざるを得なかった。すると、宅配料金を支払う余裕の無い人たちからの依頼が大きく減り、支援が必要な人に食品が届かないケースが出てきた。そのため、一部はスタッフが自家用車で宅配するなどの対応をとっている。原田代表は、『ギリギリで生活している人が増えている。物価高を何とかしてほしいのが切実な願い。私たち民間ボランティアができるのは、一時的な対応にすぎず、行政のしっかりとした体制が必要』と訴えた』と掲載されていました。長引く物価高に円安。命をつなぐ大切な食べ物が、これからも値上がり続けることが容易に予想できる現状ですが、私たちにできることがあるかぎり、助け合い支えあいの心を忘れずにいたいと感じます。

“あいあいねっと” 増井 祥子



## 居宅介護支援事業所 ～もしもの外出に、そっと寄り添う『見守りシール』～

寒さの厳しい日が続いていますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。冬場は外出の機会が減る一方で、ちょっとした外出がきつかけで道に迷ってしまうことも心配される時期です。

今回は、そんな「もしも…」に備える取り組みとして、認知症のある方の外出を地域で見守る「見守りシール」をご紹介します。



見守りシールは、衣類やかばんなどに貼ることができる QR コード付きのシールです。外出先で困った様子の高齢者の方を見かけた際に、周囲の方が QR コードを読み取ることで、ご家族と安否情報を共有できる仕組みになっています。「名前が分からない」、「自宅が思い出せない」——そんな場面でも、見守りシールがあることで、ご本人の不安を和らげ、安心できる場所へつなぐことが可能になります。

利用を希望される方は、担当のケアマネジャーや地域包括支援センター、または各区の地域支えあい課までご相談ください。また、地域の皆さまには、見守りシールを身に着け、少し戸惑っている様子の高齢者の方を見かけた際には、やさしく声を掛け、可能な範囲で QR コードの読み取りにご協力いただけますと幸いです。そのひと手間が、ご本人とご家族の大きな安心につながります。

「地域で見守る」というやさしいつながりが、誰もが安心して暮らせるまちを支えています。ご不明な点がございましたら、どうぞお気軽に担当ケアマネジャーまでご相談ください。

居宅介護支援事業所 城明 洋子

### 【2月のご報告】

今年度 11 回目の「なごみオレンジ」を開催しました。

今回はバレンタインにちなんだお菓子作り。甘い香りが広がる中、協力しながら作業を進め、完成したお菓子を囲んで笑顔あふれるひとときとなりました。

## 🌸 3 月「なごみオレンジ」のご案内 🌸

★ 日時：3 月 11 日（水）13 時～15 時

★ 場所：グループホームなごみの郷可部

★ 内容：クラフト作成・手芸

皆さまのご参加をお待ちしております。



### <お問い合わせ>

社会福祉法人正仁会

グループホームなごみの郷 可部

TEL:082-819-0505 担当:廣森



## 3・4・5 階



寒明けを迎えたものの、1月から2月にかけては記録的な大雪に見舞われました。節分ゲームを楽しんだほか、大雪となった2月8日(日)には各階で可愛い雪だるま作りを行いました。久しぶりに目にする雪だるまに話しかけられたり、笑顔を見せられたり、触れた瞬間に思わず「ひやっ！」と驚かれる場面もあり、冬ならではの楽しいひとときとなりました。

三階では、なごみの郷特養で最高齢となる101歳のご利用者様がお誕生日を迎えられました。日頃クラフト作業を行う機会の少ない職員も協力し、誕生日フォトブースの飾りを手作りしてお祝いしました。「ありがとう、ありがとう」と何度も声をかけてくださり、職員一同とても嬉しい気持ちになりました。お話をする中で感じるおおらかで寛大なお人柄に触れ、これこそが長寿の秘訣なのではないかと学ばせていただいております。これからの一年も幸多き日々となりますよう願っております。

四階では、ご家族様へ贈るバレンタインやホワイトデーのプレゼント作りを行いました。最初は見本を見ながら作られていましたが、次第にご自身の感性を活かし、一枚一枚悩みながら丁寧に仕上げておられました。また、「奥様へ伝えたいことはありますか？」とお聞きすると、笑顔で「アイラブユー！」と答えられた姿がとても印象的でした。

五階では、毎日午後から脳トレーニングや体操に取り組まれています。最近のブームは「読み上げ計算」で、暗算やそろばん、指を使った計算など、それぞれの方法で挑戦されています。正解率も徐々に上がり、日々の積み重ねの大切さを感じるとともに、何より皆様が生き生きと笑顔で取り組まれている姿が印象的です。



## デイサービス落合

## ～節分祭～

皆さまこんにちは。デイサービス落合では、2月3日に皆さまの無病息災を願い「節分祭」を開催いたしました。節分とは季節の変わり目を意味し、新しく迎える一年が不幸や災いのない年となるようお願いを込めて行われる行事です。



当日は、段ボールで手作りした鬼を用い、紅白玉を豆に見立てた豆まきゲームを行いました。鬼の丸い穴をめがけて豆を投げ、後ろのカゴに入ると得点になる仕組みです。いざ豆まきが始まると、「鬼は外！ 福は内！」という元気な掛け声が会場いっぱいに響き渡りました。



ゲームの中盤には、鬼に扮した職員も登場。利用者様は夢中になって豆を投げられ、手持ちの豆がなくなると拾い集めて再び投げられる姿も見られました。最後は鬼も床に倒れて降参し、「あ～楽しかったね」と笑顔あふれる声が聞かれ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

豆まきで邪気を払い、皆様がこれからも健やかで幸多き日々を過ごされますよう、職員一同願っております。

デイサービス落合 小早川 里枝

## グループホーム亀山 ～ 豆まき・グループホームの乱 ～

皆様こんにちは。グループホーム亀山では、節分会を開催し、『豆まき』を行いました。

笑顔で鬼に向かって豆を投げられる方や、「きゃー、怖い」と声を上げながら鬼に驚かれる方など、利用者様それぞれに様々な反応が見られ、会場は笑い声に包まれました。豆まきが終わると、「怖かったけど楽しかったよ」と笑顔でお話しされる姿が印象的でした。

おやつの時間には甘納豆をご用意し、「美味しいよ」と皆様に喜んで召し上がっていただきました。

これからも、皆様に楽しんでいただける行事を企画してまいります。



グループホーム亀山 木戸 崇雄

## デイサービス亀山 ～ 豆まき・デイサービスの乱 ～

2月に入り、デイサービス亀山では今年一年の無病息災を願い、『豆まき』を行いました。職員が鬼に扮して登場すると、利用者の皆様は表情を輝かせ、「鬼は外！」の掛け声とともに新聞紙を丸めた豆を力いっぱい投げられていました。

『豆まき』の後は、今年の恵方である南南東を向き、恵方巻に見立てたロールケーキを召し上がっていただきました。皆様笑顔で楽しまれ、節分ならではの和やかなひとときとなりました。

皆様が健康で穏やかな毎日を過ごされますよう、職員一同心より願っております。



デイサービス亀山 植木 真奈

## グループホーム可部

## ～節分会～

グループホーム可部では、2月2日(月)に一日早い節分会を開催しました。

鬼に扮した職員が登場すると、「おおお！」と悲鳴ではなく歓声が上がり、豆の代わりにボールを使って豆まきを行いました。鬼に向かって力強く投げられ、会場は笑い声に包まれる賑やかな時間となりました。

豆まき終了後には、「久しぶりにすると気持ちがいいね」、「これで今年も大丈夫じゃね」、「鬼に思い切り投げてしまったよ」といった声が聞かれ、皆様すっきりとした表情を見せてくださいました。



大きな声で笑い、体をしっかり動かした後は美味しいおやつを囲みながら、節分の思い出話にも花が咲き、楽しいひとときを過ごされました。

グループホーム可部 田村 拓也

## 訪問ヘルパー

## ～お彼岸に感謝の気持ちを込めて～

今回は、お彼岸についてご紹介させていただきます。

お彼岸は、春分・秋分の日を中日として前後 3 日間、あわせて 7 日間あります。私が以前訪問させていただいていた利用者様は、毎日欠かさず仏壇に手を合わせ、お線香をあげておられました。月命日にはお墓参りにも行かれ、ご先祖様をとて大切にされていたことが印象に残っています。「今こうして生活できているのは、ご先祖様のおかげなんよ」と話してくださり、訪問のたびにさまざまな思い出話を聞かせてくださいました。その穏やかな語り口から、ご先祖様への感謝の気持ちが日々の暮らしの中に自然と息づいていることを感じたものです。



お彼岸は、お墓参りを通して、ご先祖様に日頃の感謝の気持ちや近況をお伝えする、よい機会ではないでしょうか。

さて、ここで少し豆知識をご紹介します。春のお彼岸にお供えする「ぼたもち」と、秋のお彼岸にお供えする「おはぎ」は、実は同じものです。春は牡丹（ぼたん）の花、秋は萩（はぎ）の花に見立てて、それぞれの名前で呼ばれるようになったそうです。また、小豆の赤い色には邪気を払う意味があるとされ、お供えものとして用いられてきました。



ご先祖様に思いを馳せるひとときが、心穏やかな時間となりますように。

ヘルパーステーション 石橋 範子

## 専門家の知恵

## ～知って納得、薬のかたちのひみつ～

薬を手にとったとき、「どうしてこの形なんだろう？」と思ったことはありませんか。実は、薬の形にはそれぞれ理由があり、**安全に、そして飲みやすくするための工夫**が詰まっています。



まず、最もよく見かけるのが**丸い形の薬**です。角がないため欠けにくく、表面をコーティングしやすいことから、苦みを感じにくくする工夫ができます。また、どの向きでもつまみやすく、喉に引っかかりにくいのも特徴です。

次に、**楕円形の薬**です。人の喉（食道）は横に平たい形をしているため、直径が大きくなる薬は、丸よりも細長い楕円形にすることで、喉の形に沿いやすくなります。大きな薬でも飲み込みやすく、指でつかみやすいように工夫されている場合もあります。

そして、**穴のあいたトローチ**。これは、万が一誤って飲み込んでしまった際にも、空気の通り道を確保できるようにするための安全対策です。ゆっくり溶かして使う薬だからこそ、大切な工夫なのです。

このように、薬の形は単なる見た目ではなく、「**安全に、確実に体へ届ける**」ための知恵の結晶です。普段は気にも留めない小さな工夫ですが、理由を知ると「なるほど」と感じますね。

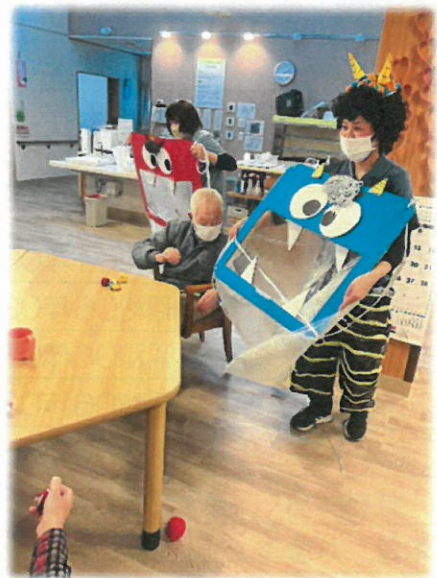


医務室 山口 郁美

## 看護小規模多機能ホーム 【 節分 】

寒さの中にも、どことなく春の訪れを感じられるころとなりました。  
朝晩の冷え込みには十分お気をつけいただき、皆さまが健やかに過ごされますことを願っております。

さて、看多機では2月3日(火)に節分の企画として、鬼退治を行いました。当日使用した大きな鬼の顔は、日々のレクリエーションの時間の中で、利用者様と一緒に制作したものです。皆さまが楽しみながら取り組み、完成した鬼の顔はとても迫力のある仕上がりとなりました。



「どうやって楽しみたいか」、「どうやったらみんなが楽しめるのか」等、いろいろな案を利用者様と模索した結果、口を大きく切り抜き、豆を投げ入れる「玉入れ」に決定しました。鬼の色や髪の毛に見立てた毛糸の色なども利用者様と一緒に一つひとつ考えながら完成しました！！



玉入れゲーム本番になると、「鬼はあっちへいけ！」、「福をもってこーい！」などと掛け声を出されながら投げ入れる方、そっとやさしく入れようとされる方、皆様の個性がでてとても楽しそうでした。また、鬼に扮装した職員の角をみて皆様とても楽しそうに笑顔で話をされていることが印象的でした。

『笑う門には福来る』、これからも皆様の笑顔を引き出すお手伝いを頑張っていきたいと思います。

看護小規模多機能ホーム 持永 妙香

# なごみの郷 Instagram も、ぜひご覧ください！



利用者様の日々の様子やお知らせなどを、  
Instagram でも随時発信しております。

各事業所のアカウントもございますので、そちらもご注目ください！

@nagominoatosato\_



## 3月のお誕生者様



| 氏名       | 生年月日        | 年齢    | 氏名        | 生年月日        | 年齢   |
|----------|-------------|-------|-----------|-------------|------|
| 杉田 サツエ 様 | 大正15年03月06日 | 100 歳 | 米田 芳美 様   | 昭和12年03月13日 | 89 歳 |
| 藪 ユキエ 様  | 昭和03年03月20日 | 98 歳  | 上田 宣 様    | 昭和12年03月21日 | 89 歳 |
| 黒田 和子 様  | 昭和04年03月06日 | 97 歳  | 竹本 恵美子 様  | 昭和12年03月24日 | 89 歳 |
| 中村 ヨシコ 様 | 昭和04年03月22日 | 97 歳  | 中崎 春夫 様   | 昭和13年03月19日 | 88 歳 |
| 岡谷 アケミ 様 | 昭和06年03月01日 | 95 歳  | 有光 睦子 様   | 昭和13年03月21日 | 88 歳 |
| 藤淵 マキ子 様 | 昭和06年03月19日 | 95 歳  | 山崎 ケイコ 様  | 昭和13年03月28日 | 88 歳 |
| 小川 久子 様  | 昭和06年03月22日 | 95 歳  | 森田 紀久子 様  | 昭和14年03月10日 | 87 歳 |
| 藤井 三郎 様  | 昭和07年03月05日 | 94 歳  | 阿瀬田 智恵子 様 | 昭和14年03月20日 | 87 歳 |
| 野村 清 様   | 昭和07年03月10日 | 94 歳  | 岩本 菊枝 様   | 昭和15年03月23日 | 86 歳 |
| 木曾 八重香 様 | 昭和07年03月15日 | 94 歳  | 川越 茂孝 様   | 昭和16年03月01日 | 85 歳 |
| 有本 マサコ 様 | 昭和07年03月17日 | 94 歳  | 打海 潭 様    | 昭和16年03月06日 | 85 歳 |
| 上川 富子 様  | 昭和08年03月01日 | 93 歳  | 田中 喜美江 様  | 昭和17年03月29日 | 84 歳 |
| 平田 正夫 様  | 昭和08年03月01日 | 93 歳  | 登立 弘子 様   | 昭和17年03月30日 | 84 歳 |
| 下津 イツエ 様 | 昭和08年03月25日 | 93 歳  | 吉見 弘子 様   | 昭和18年03月19日 | 83 歳 |
| 宮本 瑞枝 様  | 昭和09年03月13日 | 92 歳  | 妹尾 美佐子 様  | 昭和19年03月03日 | 82 歳 |
| 飯田 和貴子 様 | 昭和09年03月18日 | 92 歳  | 新田 武久 様   | 昭和19年03月10日 | 82 歳 |
| 市川 八重子 様 | 昭和10年03月01日 | 91 歳  | 田中 孝壯 様   | 昭和23年03月08日 | 78 歳 |
| 花岡 節子 様  | 昭和10年03月06日 | 91 歳  | 木原 直美 様   | 昭和23年03月29日 | 78 歳 |
| 渡邊 智範 様  | 昭和10年03月07日 | 91 歳  | 中佐古 孝道 様  | 昭和30年03月26日 | 71 歳 |

お誕生日おめでとうございます。みなさまこれからもますますお元気で!!

STAFF 発行所 / なごみの郷 おたっしやかわら版編集部

〒739-1732 広島市安佐北区落合南町196-1

URL <http://www.nagominosato.jp>

Tel 082-841-1331 Fax 082-841-1336

Email [nagomi@nagominosato.jp](mailto:nagomi@nagominosato.jp)

(当紙面は、個人情報保護法に基づき、掲載させていただいている個人の名前・写真などは、全てご本人様又はご家族様に了承をいただいております。)

## 元気で明るく家族と共に自立支援

～ イキイキとした生活作りをお手伝いいたします～

## 令和8年スローガン

“一期一会を大切に「会えてよかった」と感じてもらえる 心のケアを”